



IUFRD NEWS

No. 9 (1979. 11) —

1979 理事会 (エジンバラ) 報告

1979. 9. 23~26日にスコットランドのエジンバラ市で行われた理事会は、通常会務のほか、第17回日本大会の運営に関する討議が主題であった。会長よりの招待状にもとづき、林野庁の猪野指導部長も出席され、日本側の前向きな姿勢が好評を得た。

日本大会の運営については、日本の組織委員会で用意した資料を予め各理事に配布しておいたので、討議はスムーズに運んだ。この資料は、前回のオスロー大会を参考にして作られたものであるが、大会運営の全貌が簡潔にまとめられており、好評であった。とくに会長から日本側事務局あて、その労を多とする礼状がよせられた。

討議されたもののうち主なものを紹介すると、

1. 日本大会で始めて採用することになった、ポスターによる研究発表は、全面的な賛成を得たが、まだ、多くの会員にとって、なじみの薄い方式なので、その効果を挙げるためには、その手順を詳しく紹介する必要があることが申合わされた。

2. 大会の日程が別掲のとおり決定したことともない、前会長サムセット氏を長とし、各 Division のコオディネーター (部会長) と松井を委員とする大会研究プログラム委員会が発足した。各部会長は、明年の理事会までに部会ごとの大会分科会 (Congress Group) の数とそれらのテーマの案を用意し、明年理事会前2日間で討議決定することとなった。

そこで、各部会長は早速活動を開始する筈ですが、まづ、部会長は所属する各分科会、特別分科会のリーダーに相談し、リーダー達はそのグループのメンバーの意見を聞くものと思われまふ。部会長からは、日本の各部会ローカル・コオディネーターに、またグループ・リーダーからは日本のメンバーに、いろいろの問合わせがくるものと思われまふ。積極的に対応して頂きたいと思ひまふが、とくに日本大会にふさわしい課題と思われまふものは、早めに提案して頂きたいと思ひまふ。主な連絡事項

や提案事項については組織委員会にもお知らせ下さい。

3. エクスカーションについては、約500名の参加を予定して編成した14コースを紹介したが、非常に関心が高く、コースを選ぶ判断材料として、さらに詳しい内容と所要経費についての情報が強く要望された。組織委員会で用意した案は、今後、現地の関係者との細部打合せにもとづく修正が必要なため、正確な経費等は定まっていますが、概算数字を示して了解を得た。エクスカーションやレディスプログラムは全面的に日本側にまかされていますので、今後検討を急ぐ必要があります。

4. 総じて、大会参加に要する総経費について、早く予算をたてたい希望を持っており、各種の質問が多く出された。参加費の前納割引制については、出費の分割払いとなる点で希望が多かった。

5. 所要経費からんで、航空機のチャーター便については、早く情報を得たい希望が強く、航空会社等への情報提供を早く行う必要があります。

6. 大会参加者の日本林業への知識は皆無に等しいと考えられますが、討議の過程で表明された関心事をひろってみますと、ア) 急斜地における造林作業。イ) 急斜地における伐木、集運材。ウ) サシキによるクローン別人工林。エ) スギ、ヒノキなど主要樹種の特長、用途など。オ) 大量に輸入している丸太、チップ等の荷さばきのシステム。カ) 極端な集約林業 などを、日本の林業を知ってもらうためには、日本の気候、地形、造林樹種などのほか、住宅用材としての位置づけを十分理解してもらう必要があるように感じました。

7. 明年2月下旬に、リーゼ会長が来日され、関係者と打合せをすることになりました。

8. 明年の理事会は、9月にソ連邦モスクワ市で行われることに決まりました。(松井)

第17回世界大会ニュース

JAPAN・1981

前号は記事を完成してから発行までに若干時間がかかったため、9月1日以前の動きが一部残されました。8月7日付で送付したアナウンスメント案にたいするリーゼ会長の回答が、8月22日に事務局に届きました。エジンバラ理事会での討議を円滑にするため、会長のコメントにそって一部修正したものを、同月25日にIUFRO理事会の全メンバーに発送しました。一方9月にはいって、理事会に提案するポスター・セッションのガイドラインを完成し、14日には部会長・幹事集会を開いて、理事会に出席される組織委員長と最終的な意見交換を行いました。

委員会の動き

★運営委員会関係

8. 22 アナウンスメント案にたいするリーゼ会長の書簡受領。
- // 25 アナウンスメント案を全理事に発送。
- // 31 研究部会(東大)：ポスターセッションガイドライン案作製。
9. 14 部会長・幹事会(第5回)：エジンバラ理事会にむけての最終的意見交換。
10. 17 部会長・幹事会(第6回)：松井委員長の理事会報告。主な項目は次のとおりである。
- (1) プログラム：日本当初案では特別講演を7日開会当日の午後にとまとめて行うことにしてあったが、リーゼ会長の申入れ(8月22日受領の書簡)にもとづいて、全理事に送付した最終案では、8日～11日の4日間毎朝1題ずつ行う案を併記したが、2, 3の理由で、後者のプログラムが採択された。また11日午後に予定されていたIUFRO/FAOの合同集会は少なくともPlenary sessionとしては実施しない方針で、9日午後に予定されていた研究集会を11日午後に移し、9日午後は社交行事などの息ぬきにあてることとなった。
- (2) 以上の変更で、研究集会には8半日(ただし1半日は2時間30分)があてられることになった。
- (3) 会場はポスターセッションに十分なスペース

をととり、大会グループ用には33室をあてることとなった。

(4) 33室の各部会への割当ては一応次のおりとし、この配分を前提として明年の理事会までに各部会の日程をつめて最終的な調整を行う。

| | | |
|------|-----|--------|
| 第1部会 | 7会場 | 700ページ |
| 第2部会 | 8 " | 800 " |
| 第3部会 | 4 " | 400 " |
| 第4部会 | 5 " | 500 " |
| 第5部会 | 4 " | 400 " |
| 第6部会 | 5 " | 500 " |

(5) プロシーディングズの規模は、1大会グループ・1半日あたりの基本12ページに会場数(=大会グループ数)、8半日をそれぞれ乗じ、若干の業務報告を加えた前掲のページ数をmax.とする。なおポスターセッションの要旨(1題0.5ページ)はこの枠外となる。

(6) 開会式。開会式の次第について、日本側の検討の参考として会長の私案が紹介された。

(7) 特別講演スピーカーの会長私案が紹介された。

(8) ポスターセッションのためのガイドライン参考案が一部理事から提供されたので、研究部会の今後の詰めの参考に供することとした。

(9) エクスカージョンの説明について、コースごとの特徴をもう少し詳しく紹介してほしいという意見等があった。ということで、エクスカージョン部会での検討が要望された。

(10) 発展途上国からの参加者をできるだけ多くするため、先進諸国で協力して対策を検討していく方針が紹介された。

(11) 第1回アナウンスメントは確定原稿を年内にウィーン本部に送付、IUFRO NEWS No. 27に載せて、1980年3月に配布される予定である。

10. 24 Exc. 部会(林試)：エジンバラ理事会の報告とくにエクスカージョン関連の項目について意見交換を行うとともに、コースに関連した地域対応、各コースの組織化の予備的討議を行った。

★協力会委員会

(第4回) 54. 8. 28開催。募金計画が最終的に審議され、決定された。すなわち募金予定総額 21,900 万円、これを林業関係ならびに一般企業関係に分けて、お願いすることになっている。募金期間、55年9月から56年9月まで、林業関係は協力会から林業中央団体と、県別に林業地方団体に募金のお願いと割当をしており、また大学、国立林試に対しては主催者が同様、協力方のお願いをしている。

本寄付金は、免税指定をとるため、寄付金控除の対象となる寄付金、または法人の各事業年度の所得の金額の計算上損金の額に算入する寄付金として、大蔵大臣へ申請を予定している。しかしこの指定寄付金の指定を受けるためには、国際会議の主催団体は民法第34条の公益法人でなければならない。したがって組織委員会は法人格をもたないため、日本学術振興会に依頼し、募金および経理事務をお願いする予定になっている。募金期間は上記のように大会前1ヶ年であり、学術への募金事務依頼申請、さらには大蔵大臣への免税の指定寄付金としての

指定申請などに約6カ月を要するため、55年3月末までに第1次の募金予約の受付を終了し、大蔵申請のための指定寄付金のふり分け、ならびに経費支出実行明細の決定などの作業を済ませなければならない。

(第5回) 54. 10. 4開催。組織委員会から、このほど英国エジンバラにおいて開催された理事会での日本大会に対する討議内容の報告がなされた。

★募金委員会

さきに IUFRO-J News No. 8 でお知らせしたとおり、このほど委員の委嘱が終わり、第1回の委員会が11月14日午後1時半より永田町ビル、グリーン倶楽部で開催される予定になっている。

★第17回ユフロ世界大会日程

本誌 No. 7 (54年6月) で日程案をご紹介しましたが、本号でご説明したような経緯で組替えが行われましたので、現時点での日程を整理してみました。なお歓迎パーティー(7日)、さようならパーティー(12日)については変更はありません。

| | 9/6 (日) | 7 (月) | 8 (火) | 9 (水) | 10 (木) | 11 (金) | 12 (土) | 13(日)~17(木) |
|-------|--------------|----------------|--------------|--------------|----------------|----------|--------|-------------|
| 9:00 | 評議員会 | 開会式 | 特別講演 | 特別講演 | 特別講演 | 特別講演 | 閉会式 | エクスカーション |
| 10:00 | | | 部会集会 (II, V) | 部会集会 (I, IV) | 部会集会 (II, III) | 研究集会 | | |
| 12:30 | | | 研究集会ポスター | 研究集会ポスター | 研究集会ポスター | 研究集会ポスター | | |
| 14:30 | 部会集会 (I, VI) | 部会集会 (III, VI) | (社交行事) | 評議員会 | 部会集会 (IV, V) | | | |
| 17:00 | 研究集会ポスター | 研究集会ポスター | | 研究集会ポスター | 研究集会ポスター | | | |

(注) 部会集会の括弧内の時計文字は部会番号を示す。部会集会には特定の会場をあてるため、各半日に2部会を予定している。

★山岳林伐出作業に関するシンポジウム開かれる★

第3部会の分科会 S3.01.02 のシンポジウムが、さる9月10日から12日まで、米国シアトルのワシントン大学で開催された。シンポジウムの主題は「山岳地域の伐出計画、伐出機械および伐出作業で、つぎの5つのセッションからなっていた。

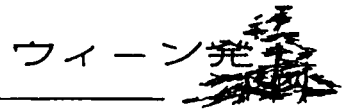
- (1) 専門用語と定義
- (2) 山岳地域の伐出計画
- (3) 山岳林伐出法に対する作業上の要求
- (4) 伐出法に関する新技術開発
- (5) 世界各国の山岳林伐出法

シンポジウムのあと、9月13日から21日まで、米国

およびカナダ国内各地を回る現地旅行が行われた。

- | | |
|--------|----------------------------|
| 9月13日 | ウエハウザ社技術センター (タコマ) |
| 14日 | 岩石地における小径材伐出作業 (オリンピック半島) |
| 15日 | シアトルからビクトリアへ |
| 16日 | 森林博物館とカウイチェン展示林 (バンクーバー島) |
| 17日 | 急斜面における大径材集材作業 (ポートレンフレュー) |
| 18日 | ビクトリアからモンタナへ |
| 19~20日 | 小径材の急斜面集材作業 (米国→カナダ) |
| 21日 | バンフ国立公園 (カナダロッキー山脈) |

このシンポジウムにはわが国から大学関係を中心に26名が参加した。



—IUFRO NEWS No. 25 (1979. 3) 抜粋—

ニフロ学術賞の募集にあたって、目的、賞の内容、選考基準、受賞資格、推薦方法、選考方法、発売方法を定めた規定が掲載されている。

研究会からの報告としては、ユーゴスラビヤで1978. 9. 18～23 に開催された大気汚染分科会 (S 2.09.00) で採択された森林保全のための大気組成基準に関する決議が独・英両国語で収録されているほか、次のような集会の簡単な記録が掲載されている。P 3.03.00 「人間工学」(Ergonomics) 特別分科会の「熱帯林業における人間工学シンポジウム」(ワーゲニンゲン, 1979. 5. 18～24)。S 4.05.02 「素材供給の予測」分科会の2集会(ヘルシンキ, 1979. 5. 7; ウメオ, 1979. 8. 7)。P 4.03.00 「リクリエーション林業と人間環境の経済」特別分科会のワシントン集会 (1979. 3. 11～12)。S 6.02.00 「統計的手法, 数学, コンピューター」分科会のフライブルグ集会 (1978. 6. 12～17)。S 6.03.00 「情報システムと用語」分科会のハンブルグ集会 (1979. 5. 15～18)。S 6.03.00 のシンポジウムは同分科会の4 専門研究会の合同集会として開催されたもので、情報処理および林業・林産研究に関する連絡資料の活用などに関連した新技術の交換をねらいとしており、多国語による林業用語プロジェクトも話題になっている。また第17回世界大会にむけての準備を行うための集会も計画された。

「IUFRO & MAB」というトピックでは、1979. 5. 6～11 に米国イーストラッシングで開催された「エネルギーと生物のための森林資源の有効利用における生物学および社会学的基礎」に関するワークショップが紹介されている。世界各地の現状紹介とそれらをもとにした討議をとおして、特別勧告がだされた。5項の特別対策は次のとおりである。(1) 社会的、経済的条件を考慮して、エネルギーのための木質材料利用における生物学的ポテンシャルを評価する。(2) エネルギーおよび生物のための木質材料の利用に関連して、森林、樹林などの生物学的生産性の変動をモニターする有効な方法を開発する。(3) 社会的、文化的、政治的および経済的關係を考慮して、情報・技術の国際的交換およびエネルギーのための森林資源の利用に関する制度的な取決めをつくる。(4) 燃料として木質材料のより有効な利用をはかるため、MAB は小集落における社会的、経済的、生物学的機会に関する研究を促進、調整する。(5) 森林、樹林への期待の増大にこたえて、エネルギー源としての木材の評価、土地生産性における変動のモニター、森林・樹林の拡大、

改良、および転用のための諸計画に重点をおく。なお UNESCO の MAB 計画の一部として、生物圏保存地域 (biosphere reserve) のネットワークがつくられつつあるが、この集会で新しく18地域が指定され、これまでの総数は40か国162地域となった。「MAB Information; Biosphere Reserves」が刊行されたことも付け加えられている。

6部会の分科会、特別分科会、専門研究会名の仏・独語版が掲載されている。

来年度次のような研究会が予定されている。

- S1 (部会集会): “過酷な経済条件下での造林” ギリシャ, 1980. 9. 7～18
- S1.01.04, S1.03.01, S1.06.00, S2.01.00: “山地環境と亜高山帯の樹木の生長” ニュージーランド, 1979. 11. 19～30
- S1.02.06, S1.02.07: “立地要因の決定と解釈および人為の影響” オーストリア, 1980. 5. 6～8
- S1.05.06: “多目的利用研究” 米国, 1980. 5. 18～24
- S2.01.06: “林木種子貯蔵” カナダ, 1980. 9. 18～10.2
- P3.03.00: “林業における作業システム計画” スウェーデン, 1980. 9. 21～26
- S4.02.00: “乾燥地資源調査” メキシコ, 1980. 11.30～12.6
- S5. (部会合同集会): 英国, 1980. 4. 8～16

—展示会の計画—

第17回日本大会は、ご承知のように外国人900名を含め、内外の多数の林業、林学研究・技術者の参加が予定されているが、その機会を利用して会議場において、内外の理化学機械・器具および林業機械類の商品展示ができるかどうかの可能性の検討を進めている。ただし、この計画は組織委員会とは無関係の別組織の展示実行委員会(仮称)をつくり、運営することになる。

展示の大体の内容は、会館の大きな2つの部屋を合板で間仕切りした小区画(間口約2.7m、奥行1.8m)を数十ヶ所と、また林業機械などの大きい機器は屋外に仮展示場を設け、適当な出展料をいただいて展示するもので、現在その出展要項を関係者の間で協議中である。何れ見通しが得られれば、公募する予定である。

IUFRO-J NEWS No. 9

昭和54年11月1日

編集: 国際林業研究機関連合日本委員会事務局

発行: 農林水産省林業試験場